

黒毛和種去勢牛における肥育前期の乾草および濃厚飼料給与法と肉質・肉量

井上一輝・田久保義和¹⁾
(佐賀県上場営農センター・¹⁾ 佐城農業改良普及センター)

Kazuki Inoue and Yoshikazu Takubo :
Feeding Technology for Ratio on earlier Fattening Period of Japanese Black Steers

佐賀県では、黒毛和種の肥育に用いる濃厚飼料の TDN・DCP は、ほぼ統一され牛肉の高品質化に寄与してきた。しかし、粗飼料と濃厚飼料の給与バランスや給与水準、および乾草等粗飼料の種類は、肥育農家によって異なっており、枝肉成績のバラツキの要因の一つと考えられる。

そこで、本試験では、黒毛和種去勢牛の肥育前期における乾草および濃厚飼料の給与水準の違いが、肉質・肉量に及ぼす影響について検討した。

1. 材料および方法

供試牛は、佐賀県内の子牛市場から同一種雄牛の産子である黒毛和種去勢牛を導入し、肥育期間は約19.5か月とした。

調査方法は、飼料摂取量を毎日、体重を2週毎に測定した。枝肉成績は、日本食肉格付協会の格付値を用いた。

濃厚飼料は、1頭毎の摂取量を把握できる、各区1台の自動給餌機により給与した。飼料多区は、1頭当たり4kg から開始、2か月間は6.5kg まで制限しながら、徐々に増量し、3か月目からは飽食とした。飼料少区は、1頭当たり3.5kg から開始、4か月間は8kg まで制限して、徐々に増量し、5か月目から飽食とした。

粗飼料は、群での給与とし、飼槽からの自由摂取とした。粗飼料の給与量は第1表に示すとおりとし、チモシーは、2か月目から0.5kg の差を設け、飼料多区は肥育前期の4か月間、飼料少区は3か月間給与した。

なお、1区の飼養頭数は飼料多区8頭、飼料少区10頭の群飼とした(第1表)。

第1表 飼料給与方法および量 (kg)

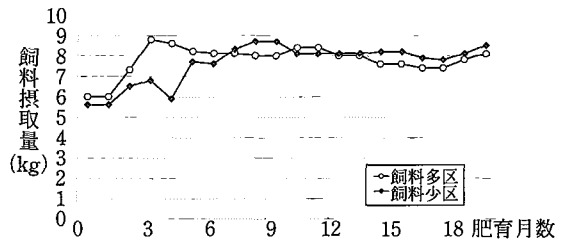
肥育月齢 (月)	1	2	3	4	5	6~
飼料多区 濃厚飼料	4.0~5.0	~6.5	飽食	飽食	飽食	飽食
粗飼料 チモシー	1.5	1.5	1.0	0.5		
ハイキューブ	0.5	0.5	0.5	0.3	0.3	0.2
稲わら	飽食	飽食	飽食	飽食	飽食	飽食
飼料少区 濃厚飼料	3.5~4.5	~5.5	~6.5	~8.0	飽食	飽食
粗飼料 チモシー	1.5	1.0	0.5			
ハイキューブ	0.5	0.5	0.5	0.3	0.3	0.2
稲わら	飽食	飽食	飽食	飽食	飽食	飽食

2. 結果および考察

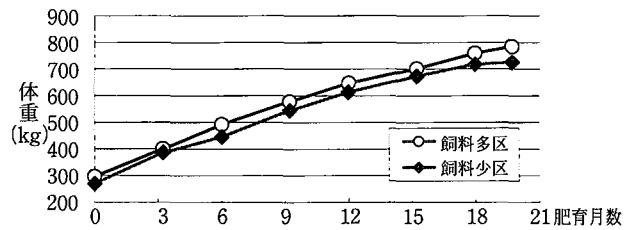
1日当たりの飼料摂取量は、一般に発育増体が最も盛んといわれる肥育開始後6か月間は、飼料多区の方が多かった。飼料多区の濃厚飼料を飽食にしてから3~6か月間は、0.5~2.7kg の摂取量の差があった(第1図)。

飼料少区の濃厚飼料を飽食にした5か月目以降の摂取量は、7~9か月は飼料少区が多く、10~11か月は飼料多区が多く、12か月以降は飼料少区が多く推移した。チモシー、ハイキューブは、給与計画通り、全量残さずに摂取した(第2図)。

体重は飼料多区が高く推移し、増体量は飼料多区が488kg、飼料少区で455kg、また1日当たりの増体量は、



第1図 肥育期間中の1日当たり飼料摂取量 (稲わら除く)



第2図 肥育期間中の体重の推移

肥育開始後6か月目で飼料多区は1.07kg、飼料少区は0.97kgであった。飼料多区の増体量が優れている傾向がみられたものの、6か月以降の増体量に差は認められなかった(第2表)。

第2表 増体成績 (kg)

区分	増体量	
飼料多区	488.0±65.3	
飼料少区	455.2±60.9	
(kg/day)		
区分	1日当たり増体量	
	開始後6か月	6か月以降
飼料多区	1.07±0.2	0.74±0.1
飼料少区	0.97±0.2	0.75±0.1

枝肉成績は、飼料多区の枝肉重量487kg、ロース芯面積59.4cm²、バラ厚7.7cm、BMSNo. 6.9であり、飼料少区より優れていた。また、バラ厚は1%水準で有意差が認められた。

肉質等級は、飼料多区が5率50%、飼料少区が10%でかなりの差が認められた(第3表)。

第3表 枝肉成績

区分	枝肉重量 (kg)	ロース芯面積 (cm ²)	バラ厚 (cm)	皮下脂肪厚 (cm)
飼料多区	487.4±55.3	59.4±8.4	7.7±0.6 ^a	2.0±0.6
飼料少区	457.5±48.0	56.7±10.1	6.7±0.5 ^b	2.0±0.5

区分	BMS (No.)	A-5 (頭)	A-4 (頭)	A-3 (頭)	B-4 (頭)
飼料多区	6.9±2.1	4	2	2	0
飼料少区	5.6±1.3	1	6	2	1

以上の結果、肥育前期の4か月間に乾草を多く給与、濃厚飼料を2か月間6.5kg以下に制限し、3か月目から飽食給与すると、肥育前期の3か月間乾草を給与、濃厚飼料を4か月間8kg以下に制限し、5か月目から飽食給与したものとより、肉質・肉量が向上した。